



繪本通俗三國志

初編

十

21
221
10



秋
221
10

東京
學
校
印

東京

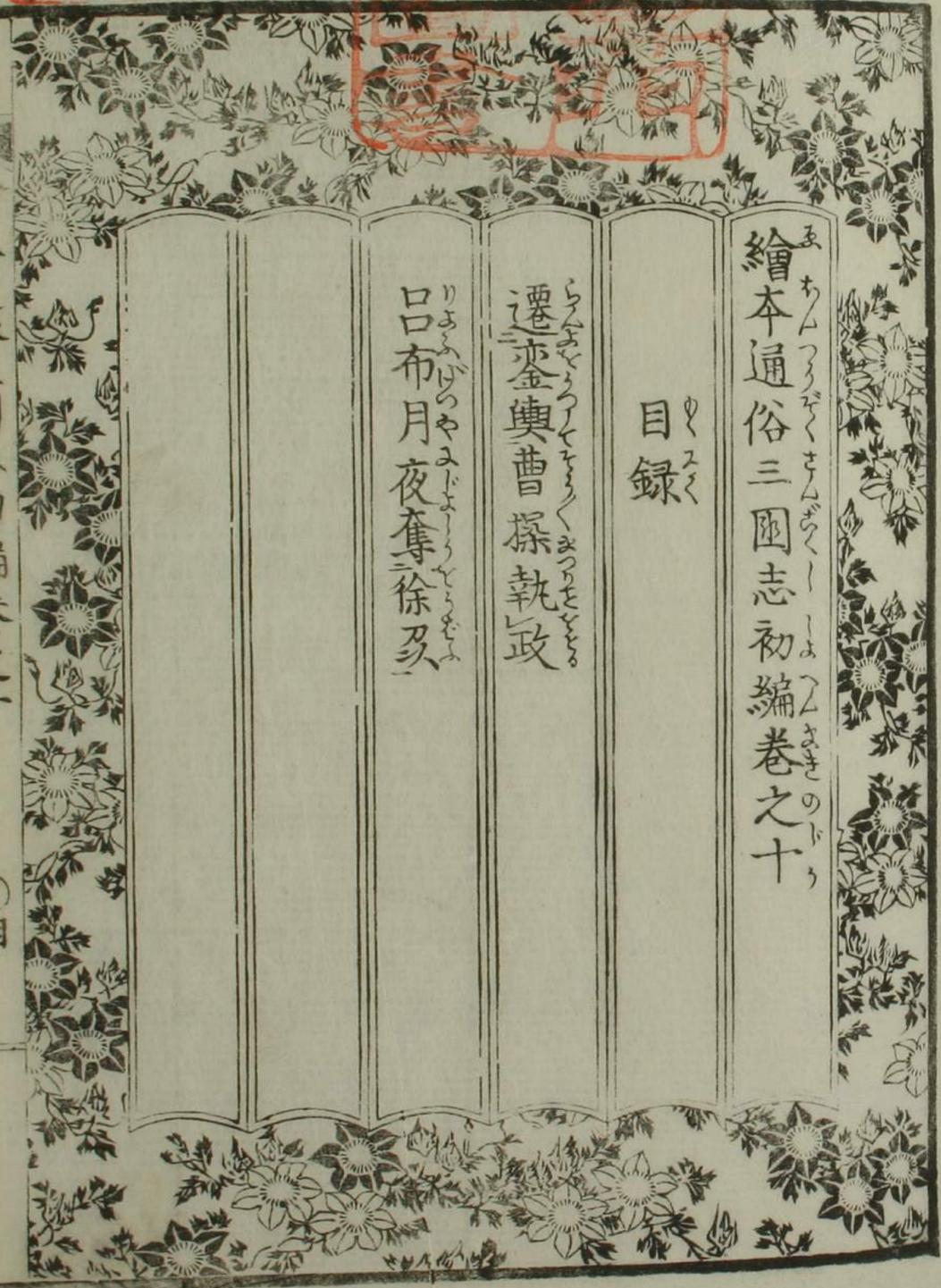
繪本通俗三國志初編卷之十

繪本通俗三國志初編卷之十

目錄

遷壺輿曹操執政

呂布月夜奪徐州

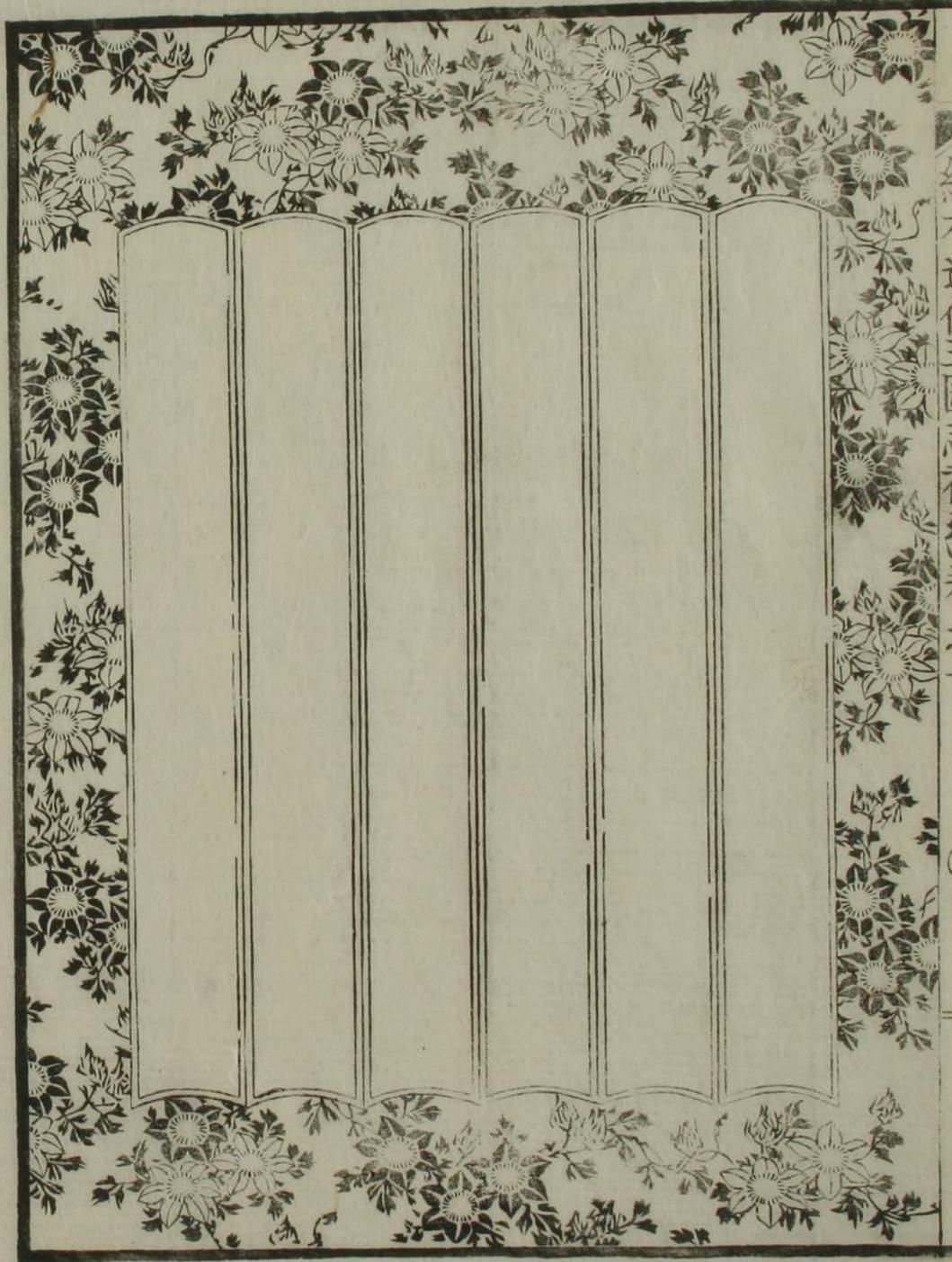


繪本通俗三國志初編卷之十

遷亦金輿曹操秉政

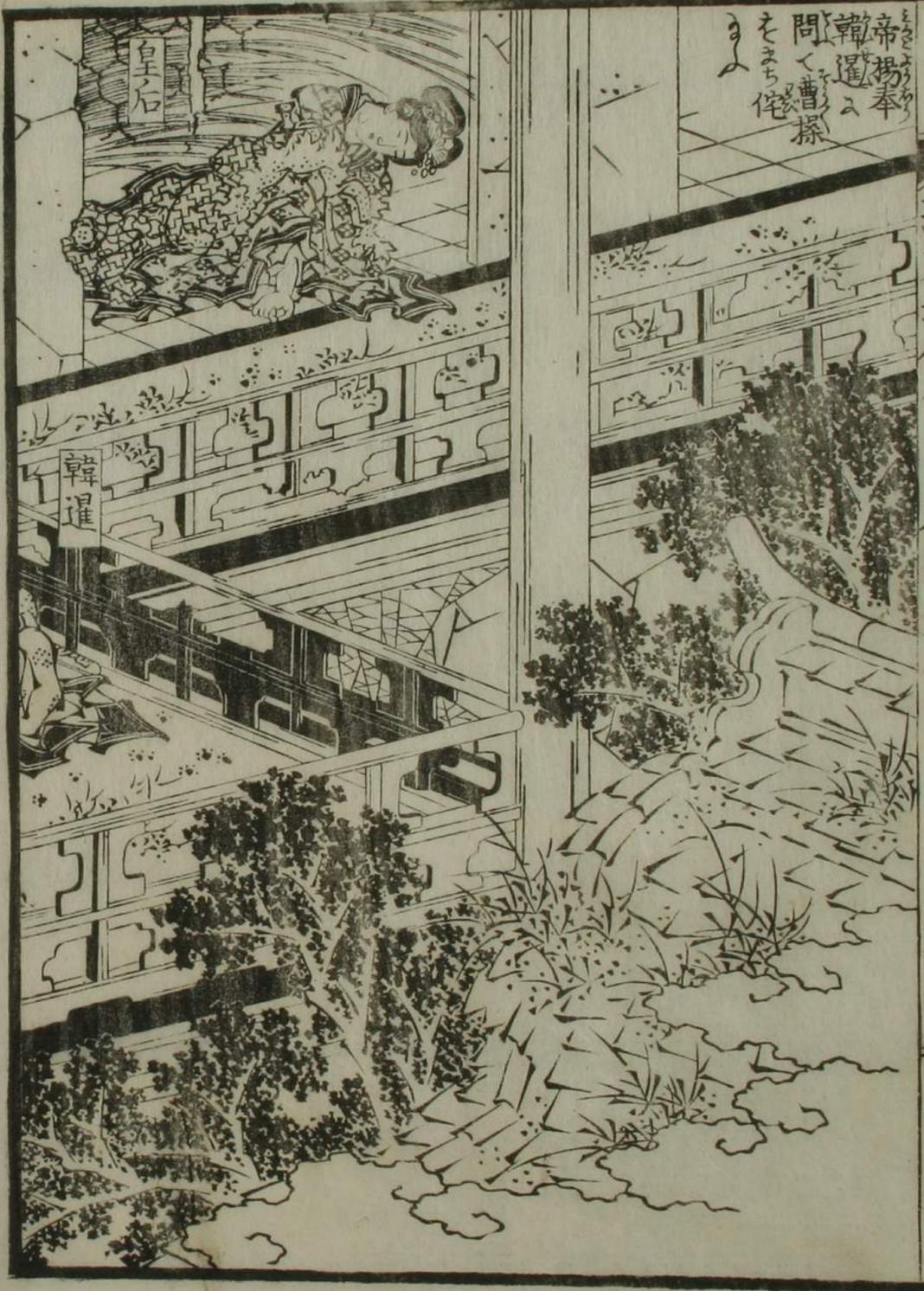
去ちちどと帝の鹿口の難と御つらきありと。ととと洛陽の旧
 都へ入せむむと董卓が都遷のとと。兵火の為は焼拂
 ことと宮殿の跡は荆棘生て月影のこともほら。墻壁の
 ぬるるがごとく。青苔露もけ。官省民家とごとく焼野の原
 ととと。雞犬の聲も。狐兎の跡路もまどろ。よ後の昔よ
 替まるありさほるれが帝ととと。侍衛の百官とととよ
 涙とがごとく。俄くの皇居と構と帝と皇后と入なり。百官の
 朝賀の。ととと高草の中に立。今年の乱逆國に起りと。日も
 静るる。ととと。餓饉疫病打はれれが公卿。守身議ありと。建

繪本通俗三國志初編卷之十



安と改元と洛陽の居民後百余家を徙食とべき物と
多し其の樹の皮と刺草の根と掘て命と繕朝廷の官人も
尚書郎より下りて山よ入と柴と採あまほしうりる世
中より太尉楊彪奏しやうる。されは勅と承むりといまど其
汰ももるびひの曹操今山東よあつて數十萬の勢を
あはれ勢あひ遠近と靡けし勅使と立と都内へまね入
賊徒と伐しめゆんやとやれ帝御許容ありやも(即討山
東へ勅使を下る。是時しも曹操山東よあつて天子洛陽へ
還幸するぬと聞ていと弛急とて議とる荀彧やうら
昔晋の文公の周の襄王と納て國の諸侯とを従ふ漢の高
祖の義帝の爲に編素して天下とをめぐんを取と今天子逆

臣の爲に寵をりて。塵と蒙むらせぬ。將軍義兵と起しぬ
といへとも山東の乱とをばめ。官軍ととてかよいまあつた
今洛陽に還幸するらせむへとも皇居宮院とをめぐあまを扶
なる人もな。是とをよするも君と扶け人乃望とを従ふ大順
なり。公道を以て天下とを服せしむる大略あり。仁義と扶け英
雄といふはの大徳あり。あつて四方の國とをせり謀る
と止どほる。そのあつとも。あは道と足んや。とてしあつて
むつじと。他の英雄是れはくそのあつが悔とをば。とて
やうよお立むいと。とてあつて曹操とて同とてさつて用意と爲
よとて兵と敷のあつあよ。天子勅使あり。詔とさげて口をひ
れ。頭があら幸とひく。とて兵とまけと追つて。弛急と帝



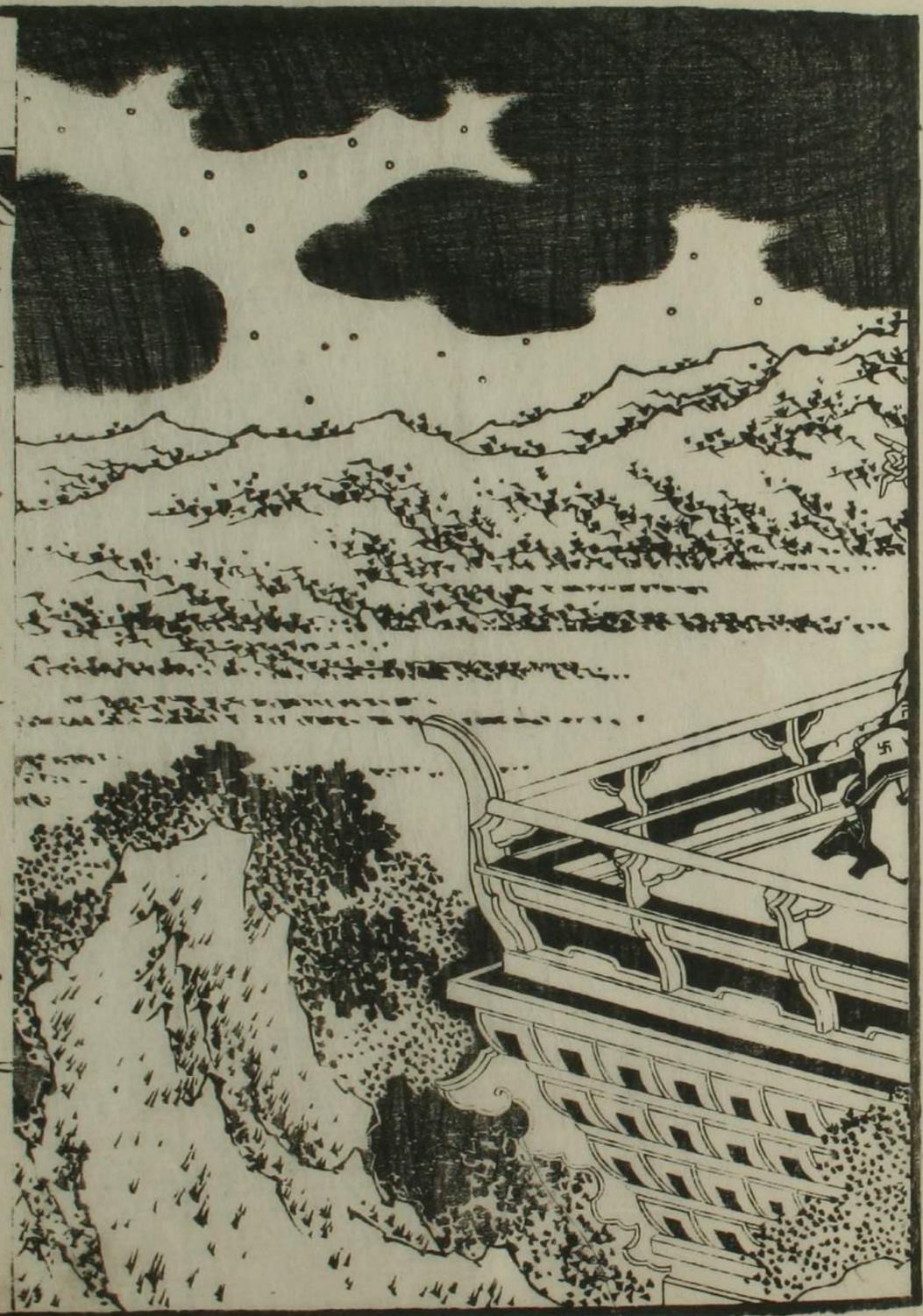
帝楊奉
韓暹
問曹操
そまら
ま

郭汜非惡天子之臣四十萬の精兵あり順と逆と討
なんど克ぶるといふ理あらんや陛下よく寵倖と保ちて社稷
と重しとぬへ時とやむらふと太平と到さんごらんまが帝も群
臣も頼とて思ひとら即時司隸校尉録尚書事
封と節鉞を假め曹操因心と謝と退とれた次の日五十里
出と陣と東李催郭汜是すを聞曹操遠路と来ぬを
人馬とるるに疲まてつらんととやの戦ふんと議とらる
賈詡諫とて曰く曹操兵十萬の勢ありて文官武将
とととるに不知と蓋と却と戈と倒しまはして降人出と戦
つらるるに敗れん李催大に怒り依らぬまが不吉の言
を出せるとと引出と斬んと仕るるを諸人くみんで一

命とを扶けし夜入と行方とるる逃失とつ次の日李催
郭汜兵とと返と出ると曹操が曹仁許褚典韋の精兵二
百余騎と付と戦うるに李催が甥の李暹李別とつこの二
人真先の馬を出とつと曹操のを見て怖らるるを
問とていさふと答めると人らりりり許褚と一騎馬ととて討
と蒐り一刀を李暹と斬と落と李別大に怕とてとらんと
ると許褚追うけと真先とつと引落と首とるつと扱切とら
くと回りつる追人さらは無りつる曹操と後とびと博と許
褚が背と益と當世の樊噲とるると感称とて又夏侯惇とた
とら曹仁と右と備へ自ら鼓と打と真先とととと諸
卒と氣ととととととととととととととととととととととと

電光のどくありんが。李催郭汜大は乱を忙に家と失ふ
大のどく急に網と洩る魚に似たり。久せくを呼ぶ
も。あつゝ住まふべし。西とに。て。ま。さ。さ。と。落。行。々。曹。操。の。賊
軍と退治して討取る首と路次は斬梟を洛陽の城外に
屯劄して勢を甚く大なるを。見。て。楊。奉。韓。暹。二
人。の。さ。う。の。議。し。と。と。今。今。曹。操。入。る。功。と。あ。ら。う。ん。ん
権柄と専らせん。あつゝ我々が前は拔群の功ありしは
賞せらるゝとあつゝ。落。行。故。と。追。蒐。と。号。し。て。大
梁の陣と取機と見と変じ。手。執。と。引。と。出。と。帝
の曹操と宮中より。勅。使。と。陣。中。に。遣。つ。て。ひ。ひ。を。を。
曹操出むと對面。禮。お。り。と。其。人。と。見。る。眉。目。清。秀。よ

一と。飄々たる神仙の氣象あり。内は思ひ多し。近年
らば。饑。饉。と。官。人。も。軍。民。も。青。ざ。あ。た。る。体。あ。ら。は。是。人。を。ら
り。精。神。純。雅。と。常。り。人。と。あ。ら。は。し。心。根。と。推。量。
と。妨。と。な。と。と。も。あ。ら。ん。と。深。く。憎。む。御。辺。に。あ。る。人。と
今。勅。使。と。兼。め。り。あ。ら。は。し。問。は。答。と。と。と。何。の。功。も
あ。ら。は。し。三。十。年。の。あ。ら。は。し。徒。ら。は。君。の。祿。と。は。ひ。を。と。あ。ら。は。し。曹。操
問。は。し。今。い。ま。の。官。職。と。あ。ら。は。し。答。と。と。と。孝。廉。と。あ。ら。は。し。と。
袁。紹。が。從。事。な。り。と。天子。洛。陽。へ。還。幸。と。あ。ら。は。し。聞。と。詔。上。と。朝
覲。と。正。議。郎。と。封。せ。ら。し。濟。陰。定。陶。の。董。昭。字。の。公。仁。と。と。者
ら。の。曹。操。席。を。下。と。敬。ま。ひ。と。常。に。御。辺。に。大。名。と。聞。り
さ。の。あ。ら。は。し。逢。と。と。得。り。と。酒。宴。と。設。け。と。持。は。し。荀。彧。と



狂主天文と察して世の
興廢と説く

劉芬

王立

ゆとの後、奏聞と經に、今洛陽へなくあきと。兵糧の用
意ありがごとし。許昌の御幸、及ばざる。官人百姓の餓を
とらん。許昌の曹陽の近して、運送の便よしと云む。群臣
誰か後をぞらん。曹操よはらん。と云る。故御邊のじ
へは後ぞらん。今より後、もははのりまよふ。へむえ。うる。故
報じべしと云。董昭拜謝し。と云。より曹操阿あり。從
が。是は侍中太史令王立といふ。その宗正劉翥。語て
り。る。天文を考る。去去年の春より。太白星と云。鎮
星と牛斗の間。ふらと天津と云。災感星逆行して。太
白星と天關の會と。金と火相ま。り。と云。つ。と。新
天子世と。與る。今漢の運氣と見。る。天教と云。益より。晋

魏の間に、うる。故と與る。ものあらん。と云。と云。のち天子は奏
て。り。る。天命去就あり。五行はね。盛る。火の土と生
ひ。漢の火徳は換り。と。天とと兼る。もの。魏の
ん。と。天下と安ん。び。と。曹姓の人。る。唯
く曹氏の人を用。政とと治。させら。べし。と。曹操
の。と。聞。と。王立が方へ使と遣。り。と。御邊の
忠義を。知。と。天道の理。深遠よし。量り。と。顔
る。是。と。ひ。る。外。は。沙汰し。と。荀彧と召。と。詔り
と。荀彧。と。漢朝劉氏火徳と。以て。天と。王。と。是
ゆえ。と。兩都。と。與る。今將軍の土。性。と。受。む。へり。許昌の
土。と。屬。と。の。地。と。行。む。と。與。らん。火の土を。生。ぶ。と。土

の木と生どを董昭王立が尸とわらう。他日あるは王者
興らんとのを曹操いよくんを決して次の日帝を見
奏聞し。洛陽の久くをたつた。皇居の構より
し。さよ諸國運送の便あり。今も飢ふ苦し。臣も
許昌の魚池の近して城郭宮殿を備へ。民物極
めと富饒あり。曹操と遷して御幸は。はらんと尸を
その威を拍を。さよと。さよと。曹操兼て用意し
り。さよ曹操と備へ。さよと。洛陽と。さよと
る。さよ深た林の陰より。喊の聲。俄う。さよと。揚奉韓暹兵
と引く路を遮ぎ。徐晃と真先。さよと。曹操匹夫天子を
却を。さよ何く。さよ行と。さよと。曹操大に怒り許褚へさよ

ら。さよ討取と。さよ下知。さよと。許褚馬と。さよと。出。さよと。徐晃大に
る。さよと。ま。さよと。五十余台戦。さよと。曹操。さよと。徐晃が威風
凛と。さよと。見。さよと。内。さよと。金。さよと。軍と。軍將と。あ
は。さよと。徐晃と。見。さよと。大將。さよと。才。さよと。力。と
方。さよと。大將。さよと。願。さよと。足。さよと。一人。さよと。出。さよと。味
も。さよと。徐晃と。二。さよと。交。さよと。今夜。さよと。雜兵。さよと。彼
が陣。さよと。行。さよと。利害。さよと。説。さよと。降。さよと。諸人。さよと。見。さよと。ま
ら。さよと。山陽。さよと。滿寵。さよと。字。さよと。伯寧。さよと。曹操。さよと。許。さよと。ま
滿寵。さよと。徐晃が陣。さよと。窺。さよと。見。さよと。徐晃申
と。解。さよと。帳。さよと。坐。さよと。前。さよと。長。さよと。揖。さよと。故人

満寵夜
徐晃が陣
志の父

徐晃

繪本通作三國志初編卷之十一

〇十三



繪本通作三國志初編卷之十一

〇十二

満寵



孫資と得々大に召喚す。御車とせやめと。とて許都より先づ
先宮殿宗廟と建て司院衙門ホす。一齊に備り董承等
先と旧臣十三人を列侯に封じ自ら大將軍武平侯に職を
授け荀彧と侍中尚書令と荀攸と軍師と郭嘉と司馬
祭酒と劉曄と司空曹操と毛玠任峻と典農中郎將催
督錢糧使と程昱を東平の相と。范成董昭と洛陽の令
と。滿寵と許都の令と。夏侯惇夏侯淵曹仁曹洪と將軍
と。呂虔于禁樂進李典徐晃と校尉と。許褚典書下を
都尉と。内外の事をほろとどり権柄をさす。曹操一人の
と出入はねは鉄甲の精兵三百余騎を従えたり。有り後朝
廷次第をあたえと故老の大臣もさす。曹操が威を怖まると凡

と天下の政をまじり曹操は告口と。その後天子は奏を嗚呼不
定乃世乃中一人と除け一人起る漢家乃運乃未とあさほ
くま

呂布月夜奪徐州

曹操が威勢さるる震る。朝廷乃政を二人乃料らひとるる。ふ
あつ白たは酒宴をさめけと文武の大將とあらとくあはれ。天下
の事を議して下るる。今漢室を輔るゆへと位をさす。三
公は登壇をり。さすを徐ぶ力あり。たぐんは自らその表
紹袁術二人をりといへ共は太國を領しと勢あり入るるを。
容易より図りごとく。劉玄德は徐州をありと太守とるる。呂
布は山東を逃れさす。玄德は身を寄と小沛の城は楯



玄德呂布を
 後堂に請ふ
 曹操が昏簡を志す

徳大寺言あびて曰く天子の詔と受順を以て逆と討は早
く頭を延と刀と受よ紀靈大は怒り馬をばし討て蒐まぶ
関羽八十二斤乃青龍力とまいて出むる戦ひ三十余合
と紀靈もあぶと引退ぞ紀靈が大将荀正といふ馬
と打と蒐出れば関羽あぶ笑と曰く你何ぞと近ばひ首を
失まんなり口紀靈を出せ勝負せん荀正曰く你の名もか
下將も紀靈將軍の對手もあらぬ関羽もあぶ直ち
馬を交へ口一合も荀正を斬と若と玄德もあぶ氣と傳
三万余騎一度も咄と蒐たりて紀靈大は乱まると淮陰を
はして引退る河口に陣を取と矢軍は日を送る徐州の城
も張飛守り乃大将とす後の陳登と相議らる下吏乃

このさむを懐とんと思ひ酒宴をのめけととぐくもはある兄
乃打立あふと死固くをを戒しめと一滴も酒と吞とるれ
とひかへりあつととるも此度へ一大事乃守りを承あつと
まぶ諸人とんを合せとす城を守らんと欲と今日も酒
と吞と明日より固く一滴も禁制とすといふと孟と前と一番
しめ又陶謙が大将なり曹豹が前も置とる曹豹す女
徳の戒しめを聞とるも其の天乃戒しめに従ふと酒
と吞とといふ張飛大乃眼をいらしとあつとる男の何と吞ま
ドと吞とと吞とあつとんが我吞しめと吞とす知た
れといふ曹豹もあつと拍ととるを得と吞と吞と吞とだ
ひと吞と吞と満座とる大は醉張飛又孟を取と曹豹

徳大寺傳 二國志 卷之十 〇十九

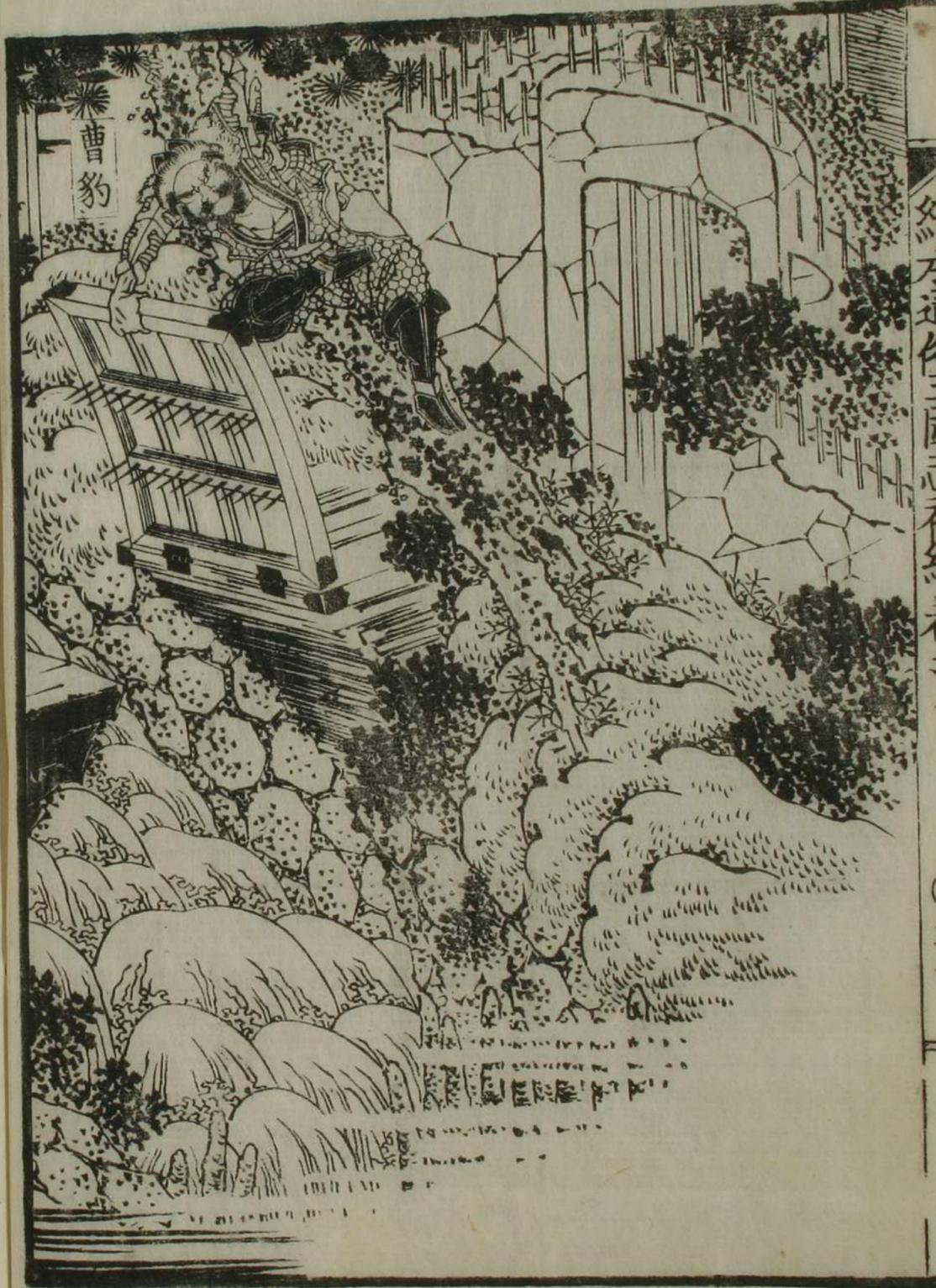
前より立より。あつた酒を強ひたり。曹豹が曰く。某は酒を
に吞をを得む。幸ひも免れむ。張飛曰く。你も元来酒
を好む。今あつた酒を吞む。再にも吞む。若くは酒を
然として怒ると曰く。你も酒を好む。大將の下知は背く。と
持て曹豹が背を百杖打ち。血を流れ。泉乃づとる。なれど
陳登諫めり。曰く。玄徳打立ぬ。固く戒め。何ぞ大
や。これとへる。張飛は怒り。你の文官より。何ぞ大
將の事。あつた酒を又五十杖打ち。曹豹退き
痛骨髄は深く張飛と恨む。其夜は。呂布が
方へ書簡を送り。玄徳は南陽に出。張飛一人徐州
を守り。今夜は酒を吞む。前後は知を酔臥たり。速く

来りて城を取む。内より門を開かん。遣はし。呂
布あつたと見ゆ。陳宮と議する。陳宮曰く。將軍此小沛
乃小城を守り。いづれも居ぬべし。今を徐州と
取む。我も何くへり。道を去ん。早く打立む。と
赤兔馬を引出して。鞍を備へ。呂布戦を取て。打乗
五百余騎。打出。陳宮高順大軍を引く。後陣は
は。其路は。四十五里。夜は四更のころ。其
徐州の城下より。月の光も白日の如く。其
辺を伺ふ。見る。用人の兵も一人も見へ。初は安し。と
呂布門の前は馬を立。劉使君事。急あり。使と馳ぬ。と
中門をあけ。と呼ぶ。曹豹かねと矢倉の間は



繪本通谷三國志切編卷之十

三十三



繪本通谷三國志切編卷之十

三十三

皇都池田東籬亭主人校正



東武葛飾戴斗畫圖



淨書

浪速内山蠟窟

彫工

京師井上治兵衛

和漢書籍賣捌處
西洋

大阪心齋橋博勞町角

群玉堂河内屋 岡田茂兵衛

